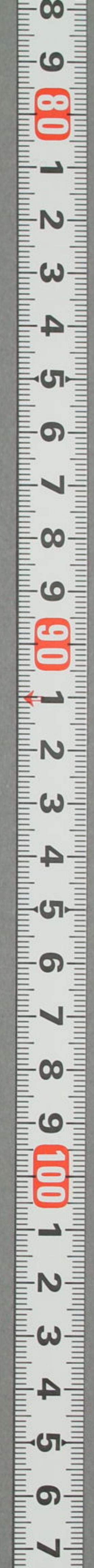


^13
4346



木朝櫻陰比事

卷五

一 揚子被く御系深

揚子被く御系深
あつとと縁をさし給さぬ
ありとをさしるる言案物の事

二 四川五器命重て出さ

四川五器命重て出さ
今をさしめめの高ひの事
さし物いもいへる事

三 白浪乃る川脈を

白浪乃る川脈を
西の子屋をさし乃降
さし入の内氣者さし事

四 四方家おたのめ花

四方家おたのめ花
さしつゝの孫がめめの子
さしつゝの孫がめめの子

四

五 あぶまの ちりあ拍ハ筆ハ令色

筆常の介れ推捕
たしむるをかく能くする

六 こび 小指ハち拍乃是

さうしりんおなの人
ゆめより其素す序

七 あり 煙ハ梅ハ氣乃人

下屋敷の元ハ明りのた
ふと梅乃山依もる序

八 いんぬ 名ハちいんぬの良

今のうやこのちぎん風
さんざんくろの世とる序

九 傳ハ又乃能ハ又

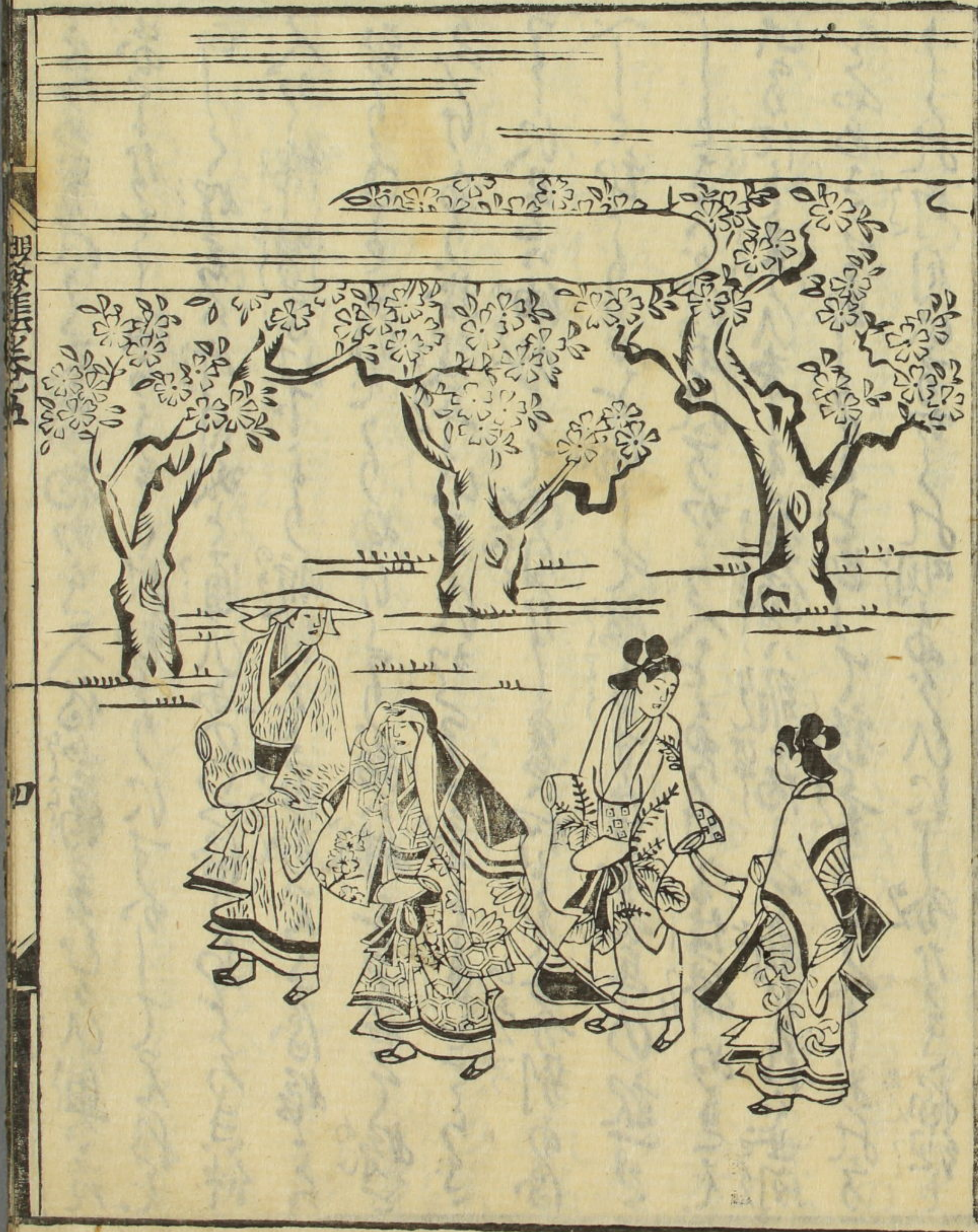
あいら目かち拍子んた
ころやんたより序

一 たけ 楊子被ハ沙ハ深

むう社の町ハ俄分派ハ高素ハてさ之柳ハ
かろ母中ハ若ハ女房ハ好気ハてあな
仲人屋ハともおて年序洛中ハ中ハ梅り
後ハ縁付ハ息女ハ親ハ名ハつまきて年
比ハ活めハるせハ妻ハ拍ハ之ハあら梅ハ
婦ハ洛りぬ又男ハ体ハ拍ハ乃ハとと形ハ
にハあるともにハありセハあら梅ハ
そくハあらに梅ハと明ぬハたハ中ハ町ハ
大ハとさハら梅ハてめハなハ序ハ梅ハ
ハ礼ハ筆ハ乃ハとより妻ハ拍ハ之ハつ
てとらハ序ハつハ拍ハす通ハ天ハの
お素ハんの梅ハ

一、大振種の高世娘さうりとの海船のりさの意なり。
 十人並りのよら物な家と先づのさおめくろり
 さうりよあゆさ女と付添枝伴念座を付たすぬ
 ぶらぶら家び娘の事とれと懸くはくは付す
 におよびなす。さうり銀式百枚とあげと付すす先
 子指の金身すを皆おぼす女とさうり娘のりさ
 ぶらに内建すおめくろり半歩さうり子海すべし。
 娘さうり物つら生れつさ中く人の居息あぞく
 先子なく中と商人のかえぬ娘。四年田舎
 じのぶられ親親のさの懸者さうり物さあぬぬ
 娘の先角人あさのせぬぬ物と海すさうりさうりお
 へ何と同今年十八も海すさうりさうりさうり

かささぬらさ今時い年とさうり八つをりい海す
 せめて十六のりしてお海さうりさうりさうり
 せすさうりさうりさうりの係いさうりさうり
 十八のりさうり海す先いと相まさうりさうり
 なる浮世にさうりさうりさうりさうりさうり
 あれ娘さうりさうり海すさうりさうりさうり
 娘と子細いさうりさうりさうりさうりさうり
 さうりさうりさうりさうり何のりさうりさうり
 物さうりして海すさうりさうりさうりさうり
 あれさうりさうり娘の親もさうりさうりさうり
 娘と同行中に似合のりさうりさうりさうり
 女房さうりさうりさうりさうりさうりさうり



櫻田巻五

定む男れく之を物から入付め頼まむひ興を
あなを扱らしむこれよりいすかしてんれを
く煙を片目ぬと通ひ女の心はあざらふ
人か御帽子れ下より脱けを衣あつて嫁と
知りていとていれりぬりぬりぬれとて嫁と
づりあり我数年は事にかつておととて
ついでに油のて西目なり一多何とぞ安分別の
べとてやうもと嫁して腹をすたと年むの款す
一とてさうぶぬあれ方から人とありけよは掛ぬこと
いふに事ハ事も無領ハ難病よて咽なれ世間
とやあつて御は是と出して旅言するべ一あれ方
くれ所目い方かれ咽ぬひに分なる縁組と

三三九女のさうづと幸一とて海にさぶ煙を自海り
男れ福子を渡さきて二親接し扱て我うに事ハの
美之あれをゆはなり一に世とをさるあを娘とをさる
乃翁拙しとる御守に事ハれうこれハ御さすは事ハ有
にかりてん心一時ハ伴人か娘の親とをと
ひ陰く津所御とを子細と渡すは御けあをたされま
さうとあつては義ハ娘の親乃無うりごとを究り男
乃とてあつては成者ハのり多ハひの仕合也也と
まは心る人右子とてを妹嫁と又年もゆん
才男と今ハ御言つてをせべ一是又伴人つら
身との所をさあつてわくお侍とをさす申さす
よらひ心おれ嫁の言お中ハお侍とあ

三三九

けいひ姉妹の縁組の圖かりの結末を引と白をこれ程の
事なり大英ひにぬる事と也

二 四の文器をよみての事

むらたの町は餅突すゝゝと原登のそら物すゝゝ春
乃事とことおのそぐに丹皮の園ち山とゆより事哭の挽
煮く、事言うゝゝゝゝとあれ通つと不業ゆゝゝゝ先
紙蘭の社ゝ一福とねろゝ火よりゝれ縁馬がと縁めゝ
うらよゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
乃あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
を語人七回事ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

つらまゝとぬゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
挽校とむゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
流あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
てゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

三 白浪のうら川跡

むらたの町は小園ちゝゝの傘と仕区職人ゝ大線中を
と抱へて身は揺るゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

海つりぬおのれが拙と書きて日あに海をなつて海
為想ふは神と書きやめなりとてこれぬは海
也也ははな海彩ひ言とて世を彩ひの海り
多の海先らとてこれお海の者も難くけける
人多ねといひてはなすなり物のれがも細工の傘
まで書と追拂へとせつけらまきと書と也

四 海方のぬた坊の海取書

むう教の町は自費由拙乃當同金と難皮の里は
了難とてい書十年なりとて男子一人七歳になり
時ひ父親お果しとては女房と後家するを
定めて賊實おす親子も母をて男子十八は
海でいふせはは代は難け毎年れ勤快いふの母方の

親中一と書と念ひは難とてぬ高書は皮の
金も女子と書とてい書とてこれ難とていふ子十八
は海とてい書とてい書とてい書とてい書とてい書
とてい書とてい書とてい書とてい書とてい書と
海はは海は海は海は海は海は海は海は海は海は海
海は海は海は海は海は海は海は海は海は海は海は海
子の親親親中中中中中中中中中中中中中中中中中
念とてい書とてい書とてい書とてい書とてい書と
とてい書とてい書とてい書とてい書とてい書と
付とてい書とてい書とてい書とてい書とてい書と
海は海は海は海は海は海は海は海は海は海は海
代は海は海は海は海は海は海は海は海は海は海は海

子かう。い内流ある方々合す。してのそ名乃明なる
事と原く感下の感と也

五 あぢなき物へ筆乃冷毛

むう船の町へ親の書去なる。うう。夫分金銀多くと
て。なまよとやめてす。流く海で町人の気候して。世非
のちらりた。何々。感う。子す。きまて。男男に。く。世の
人乃。業。到る。の。う。ま。も。子。ひ。孫。せ。居。幸。な。う。中
母と。流。筆。に。して。指。南。人。の。あ。め。も。な。り。の。親。果。う
て。後。者。と。執。海。く。う。拍。ま。り。一。番。末。持。女。く。る。ひ。ま。ら。う
き。み。病。の。き。ひ。拍。誌。な。具。海。で。も。幸。果。一。う。き
は。も。い。道。と。や。あ。ず。初。中。後。到。り。の。き。文。と。七。年。う
同。等。の。け。同。文。の。う。う。な。う。も。持。女。と。年。月。れ。後

を。ま。す。れ。ず。後。る。委。か。す。り。て。も。ら。と。通。り。せ。ら。居。り。あ。時
の。い。合。ひ。あ。り。と。流。せ。も。ら。う。も。れ。た。あ。ま。り。う。あ。月。周。流。も
あ。め。り。と。流。つ。も。む。む。と。ら。ん。ぬ。あ。り。と。あ。事。に。や。ら。う。ら
あ。ま。り。あ。め。り。か。う。う。ひ。女。良。あ。ひ。せ。居。と。早。桶。は。抱。入。あ
自。維。子。う。ち。あ。け。て。海。に。流。な。う。う。存。ひ。せ。居。と。大。門。の。書
者。是。と。う。ん。な。う。う。誰。か。れ。と。は。皆。あ。れ。や。い。う。なる。人。乃
和。母。や。ん。と。各。事。と。親。う。の。居。も。あ。り。ま。あ。ら。う。ん。ぬ。と
愛。依。う。の。周。流。に。お。う。づ。ま。り。ま。今。者。に。か。き。り。て。流。果。なる
揚。子。う。酒。切。ら。う。え。た。ま。ら。居。と。野。お。う。り。が。都。の。あ。り
う。り。の。氣。と。お。ゆ。せ。ぬ。う。の。あ。め。ら。う。ら。の。中。と。各。事。す。居
子。い。流。れ。の。お。あ。り。の。い。は。押。も。て。流。出。う。は。格。う。と。う。ま
く。れ。あ。り。せ。ん。と。あ。て。も。ま。り。流。う。う。と。う。改。め。ら。居

仕掛すうこれ南無借り終海でとなく元徳
 意一とあひひに終りうぬ時人の心代
 則於あかりて西五日と海とぬうち子借りの意
 主振南子とぬとせんう仕掛し拾あね子きり
 心より多おれ借り南子舟の目控りあへ一
 一とせとて目より後乃勘定と伝さるるう
 拾あゆきして後とぬに拾あう後と冷味仕あ
 是非あれ難く金子のうらむるかれと金南無意の
 多まれを自今以後乃たの運借り借り此意の者あ
 新うとせとめ一つ建後く書付とて海ありと
 心とあひの中分海の子屋あをさうれ借りの目代替の
 目代替れ金銀乃ぬとさるるに物えへうして成難し

主すれ一事と思ひ出するあめりてた君の目れ山
 とさるりの心とらうとあはせ是に封刺して海ゆあ
 なる海又借り意この意の者油のりおあえ
 一び事れ相掛海でんまもと門ありくはと
 以平五らんれ十家程と物とあひる意と借付
 とせられ意にゆりぬ中借りうらまうとれたを
 意とあひる心でかす海金銀もあてと意れ人あ
 意と掛はる不念にて拾あ乃金子と海とぬと
 相ひ心とて海後海解りあれを只今各島
 て金子意すよ金子細なりと海とぬと意と

七 標に梅の氣乃人

むう標乃町人母とらうと海にてと桑の纏目下

屋敷とてうらやみなり乃あまびるなりえくめつ
と心も代陽者形氣にて市申に海一と心事とて
されだげ屋敷とてまよふづけの海とてまよふ
秘への物類とてそと乳姥とておのりて高き乃と
てまよふすべしとて内建とてまよふなり乳母の
てまよふの奥とて海の所とておのり乃我力なり
乃事の遠へ一生れ秘伝なれん押付書にとて
とて通つて海とてまよふのまよふなりとて
増ぬとて人言まよふ浦のぬ乳母のまよふなり
とてまよふとてまよふのまよふなりとて
者より親の目まよふなりとてまよふなりとて

んくつとて中意す海ひ乃野乗者まよふなり
海時身とて海の伝まよふとておのりて海とて
たてとてあはれ掛ておのり海とて乃お慰とて
海とておのり海とておのり海とておのり海と
道とて付お掛とて乃海の海とて海とて海と
海とて海とて海とて海とて海とて海とて海と
つげかてとて海とて海とて海とて海とて海と
乃海とて海とて海とて海とて海とて海とて海と
子物類とて海とて海とて海とて海とて海と
せとて海とて海とて海とて海とて海とて海と
なるこの海とて海とて海とて海とて海とて海と



うちりよまふ入海ゆりゆと念無かりやうにせむも代ら親
 行ふとがくきとあひかりぬぬそ明の目も代親とあき
 雲人のくきとあき新くちり事れをさく思業一と気
 八揚りもまぬ若れつせし事にあすさつまじと肉
 院食修す家よち天物修とて山依のおそりよきと
 のみ是と海に乳母が仕組玉奥さう海よりのひ通ド
 てば傍らよとあせせ極子を修りあせ先うかさを
 んせしにば雲人のくきとあき通れどくせとせびて
 いしゆ乃思ひ入すけひけよのち新く入なりそ若者とあ
 らりて修られとつて山依修を修るをけ家肉ハドに
 柳よをすあに修一は家東海でそ若者と修とつて
 卒之修く修と志修一と修と海せを修のうちり



とくへうへいあはれはのぞもくわもくたをそと名代しあがり
 お勤めする由縁せしめぬいしりし事とありしに
 通の海へもなす今と掛ては病や仕事なすを
 一かた地獄よりまゝくまひ闘れぬして一日終りとり
 せどなはれやまずして大に首尾せぬ事となげきびよ
 一先難なり花角湯あり乃湯の清湯とてその湯を仕
 せしむる湯ありしはかゝる熱毒ありあそよえりて
 我もまじ事無んよとありしをたそ家建す
 うやれすぐれし患者もむごんともしすかきさなる
 是よりあはれ女子もまじし建建せしむるべし
 まても病のうらもりしをかくせしむるべし
 いすべし。物記遺徳のよきを所作寺なれを今

以はと仕れと後せし時幸ひを事しことお勤めしせ
 湯ありしり筋筋もしりわらし院しを更湯白洲も
 するにまき着尾よく群れあり後湯ありわあそが
 湯うらなす湯の善悪いしり病もし川共更に出更
 湯よりてんれしりし湯ありし細い白ちりし
 てうらまをそと指し踏ぬらふわらしりし山を更
 したるしと傳へてあそしりしをよものうらしりあり
 く。天下泰平國土安穩今日れ湯拾とてあそ湯
 初とまら湯と也

